



「カテキズムの学び」

第40回 典礼と秘跡についての総論(前半)



2月のクラスがサクラファミリア4階で行われました。YouTube配信は上のQRコードから視聴できます。

七つの秘跡すべてにあてはまることの学びの箇所ですが、大切なポイントがいくつかありました。その一つは、秘跡を受ける主体は人間ではなくイエス・キリストであるということです。

秘跡が効力を持つのは、そこでキリストご自身が行動なさっておられるからです。洗礼を受け、諸秘跡の中で行動し、諸秘跡が表す恵みをお与えになるのは、キリストご自身なのです。(1127番)

それゆえ、秘跡の効果は授与者(通常は叙階された聖職者)の資質にまったく関係しません。

秘跡は「行為が正しく行われるということ自体で(ex opere operato)」効果を生む。……ある秘跡が教会の意向に従って行われるとき、キリストとその霊の力が、司式者の個人的聖性のいかにかわらず、秘跡の中で秘跡を通して働きます。(1128番)

たとえば、聖体の秘跡(エウカリスチア)の効果は、司式者が教皇様であれ、新司祭であれ、あるいは(残念なことに)罪人の司祭であれ、変わらないということです。もっとも、「諸秘跡の実りは秘跡を受ける者の心のあり方にもよる部分があります。」(同)

洗礼を受けた信者はすべて「共通祭司職」に与っていますから、典礼においてそれぞれの役割を果たすことで、キリストの神秘を共に祝います。

各自はそれぞれの役割に従いながら、すべての者のうちに働く霊と結ばれて、これを果たすのです。祭儀においては、司祭も信者も、各自が自分の役割を果たし、そのことからの性質と典礼上の規定によって、自己に属するところのみを、そしてそのすべてを行うべきです。(1144番)

また、典礼の素晴らしいところは、参加する者による外的しるし(歌、音楽、ことばと動作)の調和によって、信じる民全体の姿と神からの見えない恵みとを五感で感じられることです。今年の復活祭はぜひ一同で栄光の賛歌(グロリア)を歌いたいものです。

(文 酒井俊弘補佐司教)

「生きる」— 難民移住者

幸あれ、世界の女性たち

3月8日、私は名古屋入管にいました。イラン人女性に頼まれて難民調査に付き添っていたのです。女性や子どもは脆弱な難民申請者として特に配慮が必要です。私は部屋の外で待機し、休憩の度に本人の気持ちや求めを聞き、必要であれば担当に申し入れをしたり今後の調査日程などについて担当官とともに話合ったりします。

その日、私は階下の食堂で仕事をしながら女性が戻るのを待っていました。どこからか耳障りな大声が聞こえてきました。「タワケ、こんなにも書けんのか」と誰かを罵倒しているのです。食堂を見回すと、声の主は椅子に座って腕組みをし、そばで女性が中腰になつて書類に何かを書き込む姿が見えました。どうやら2人は夫婦で、入管に提出する書類を準備しているようでした。日本人らしき夫は、書類の束にオロオロする外国人妻に手も貸さ

ず、ガミガミ怒鳴り散らしています。



私はその夫を見ました。視線に気づいた男性は、私と目が合うと声の音量を落としました。「そこは電話番号じやろが、ハヨ書けハヨせい」その夫に言われた妻が「ハヨハヨ言わんで」と小声で言うと「何じやい喧嘩売る気か、このタワケが!」と夫はまた声を荒げました。

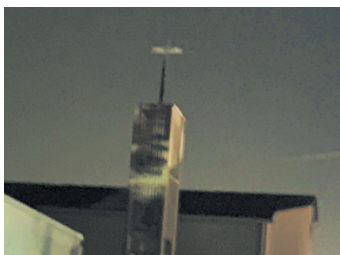
私は妻のそばに行こうと思ひ、広げていた書類を片付けました。振り返ると夫婦はすでに大部屋へ移動しカウンターの列に並んでいました。不躰に近づいたあの夫に殴られるか

も、との思いが頭をよぎりましたが、構わず私は夫婦に近づきました。驚いた男性は私と一瞬睨みあい、プイと顔を逸らしました。その時、入管の案内人が夫婦に「更新手続きですか」と声をかけてきました。途端に夫は制服の案内人にペコペコお辞儀をしました。嘆息しつつ食堂へ戻った私は、テレビから流れるニュースに目がとまりました。「今日は国際女性の日です」。難民調査に挑むイラン人女性にも、夫に怒鳴られるままの妻にも、そして私にも。幸あれ、国際女性の日。(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

仁川教会修道院火災



全焼した木造の修道院



鐘塔はススで真っ黒

3月6日、仁川教会敷地内にある修道院建物で火災があった。修道院は全焼したが、幸いけが人はなく、聖堂や信徒会館など他の建物への類焼もなかった。教会へのお見舞いや協力は、しばらく対応することが困難なので、それぞれのお祈りにお留めいただきたい。

【写真：仁川教会信徒】

スペイン外国宣教会司祭

フスト・セグラ神父(89歳)帰天



フスト・セグラ神父は3月5日、呼吸不全のため、姫路聖マリア病院で帰天。長年現場での司牧活動を大切にされ、大阪教区では神学生養成にも携わった。幾度か生死をさまよう大病をされたが、その都度、奇跡的に回復し現場復帰された。宣教の熱意あふれる神父であった。

【略歴】 1933年5月14日、スペイン生まれ。58年7月に司祭叙階後、母国とアメリカで宣教活動。63年に来日。2年の日本語研修の後、甲子園で助任。66年、高松教区で司牧。89年、甲子園主任。95年、99年、布施主任。99年、2002年、かわちブロック共同宣教司牧。その後、2011年まで神戸西ブロック共同宣教司牧。2012年、2016年、ピアンネ館に居住しながら教区志願者養成協力司祭。2016年、2020年、聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会チャプレンを務めた後、仁豊野ヴィラにて療養。

訃報

Sr ビルジッタ小池悦子(愛徳カルメル修道会)は、1月29日、老衰のため帰天。85歳。兵庫県出身。奉献生活62年。



1964年初誓願後、愛徳学園小学校で長きにわたり教職に携わっていた。いつも笑顔で子どもたちと関わり、信仰教育にあたった。東京大司教館や門真幼稚園での事務職、院内での仕事に奉仕した。いつもこやかに人と接し、真面目な優しい人柄であった。ご聖体に対する信仰が深く、晩年はその姿から感謝

と喜びが伝わってきた。聖ドミニコの娘らしく周囲に光を輝かせ生涯を全うした。

Sr マリア・ロレット阿部良子(聖ドミニコ宣教師女会)は、1月30日、消化管出血のため帰天。88歳。愛媛県出身。奉献生活59年。



1963年10月初誓願後、愛知県岡崎市での幼児教育の使徒職をはじめ、他県においても教諭、園長職を含め38年間務めた。何よりも子どもが大好きで、幼児の心を巧みに捉え宣教に励んだ。ユーモアある優しさで園児や保護者にも大変慕われていた。共同体では、オルガニスタとして心を込めて典礼奉仕し、

大阪教区司祭 上田憲神父の母、ウイニフレッド上田メリーさんは2月16日、心筋梗塞のため帰天した。79歳。

大阪教区司祭 高橋聡神父の母、小さきテレジア高橋幸枝さんは2月17日、老衰のため帰天した。95歳。